

## みずほ銀行のサブサハラでの取組みについて

### 1. 出張所開設

弊行は 12 月 12 日にアフリカ大陸で初の拠点となるヨハネスブルグ出張所を開設した。出張所形態であり、通常の預金・融資業務は行えないものの、欧州拠点がブッキング拠点となり各種金融サービスを提供し、当出張所は日々の営業活動及びサブサハラ地域の情報収集を行う。当出張所の営業範囲はサブサハラ全域 48 カ国を対象とするが、実質的には主要な 7～8 ケ国（国の格付けや日系・非日系企業の進出規模等を勘案し、ナイジェリア、ケニア、アンゴラ、タンザニア、モザンビーク、ボツワナ、ナミビア、南アフリカ）が主たるターゲットとなる。当出張所の顧客層・取引先は以下の 4 カテゴリーとなる。①日系企業全般、②南ア優良企業及びサブサハラ政府／ソブリン企業、③インターバンク（主として南ア 4 大銀行）、④マルチナショナル企業（弊行の海外拠点で取引のある非日系企業）。これに加えて、日系企業及び各国政府等が主導するプロジェクト案件及び貿易取引への取組みを目指す。

### 2. 弊行顧客層におけるビジネス環境・展望

各カテゴリーにおけるビジネス環境及び展望は以下の通り。

#### ① 日系企業

サブサハラには約 200 社強の日系企業が進出しており、このうち約 100 社強が在南アフリカとなっている。商社及び一部製造業は当地での業歴も長く、当地で製造・販売、各種プロジェクト案件への取組みから資金調達・為替取引についても相当の規模に達しており、金融取引の多様化ニーズが強い。また TICADV 以降、本邦企業のサブサハラへの新規進出が増加しつつあり、拠点設立手続き、現地アドバイザー・パートナー探しなどのニーズが高まっている。

#### ② 南ア優良企業及び政府／ソブリン企業

南アフリカは、政府系企業である ESKOM 社、Transnet 社を中心とし優良企業が多く、資金需要も旺盛。サブサハラ各国において今後数年間は高水準のインフラ投資が必要となってくるが、優良企業及び政府のシンジケーションや社債での調達が増加している。

#### ③ インターバンク

域内の覇権争いが加熱する中サブサハラへのネットワーク展開が急加速している南ア 4 大銀行において資金ニーズが強い。南ア自体の外部格付けが BBB であり、4 大銀行の調達力・調達コストは欧米日の主要行対比で劣後しており、外貨調達ニーズも当面高水準で推移するとみられる。

#### ④ マルチナショナル企業

アジア各国（インド、インドネシア、マレーシア、韓国、等）の企業が相当数当地に進出しているが、各国金融機関の当地プレゼンスや資金調達力が弱く、各社の資

金調達ニーズに答えきれていないと考えられる。中国系は2行が当地でフルバンキング営業を行っておりこれには当たらないが、日本と同様にアジア各国の 아프리카進出や取組み強化も加速して行くとみられ、今後弊行にとっても高いポテンシャルのあるマーケットになると期待できる。

### 3. 弊行のアフリカでの取組み状況・経緯

今年度になり弊行のアフリカ地域への取組みは急速に強化されてきているが、現在に至るまでの状況・経緯を簡単に説明しておきたい。

弊行の在ロンドン欧州駐在常務は EMEA 全域を統括しており、アフリカ地域も当該欧州ユニットに属している。これまでロンドンもしくは欧州拠点からフライイン営業を行っており、日系・非日系取引に取組んできた。また、本邦においても以下のイベント・業務協力協定締結を実施している。

ー2012年2月に南アスタンダードバンクと業務協力協定を締結。同行はアフリカ最大の金融機関であり、同行との提携により弊行の顧客に対して必要な金融サービスを提供できる基盤を確立。

ー同年11月貿易産業省、南ア大使館、スタンダードバンク、弊行の共催で日本企業向けに南アフリカセミナーを開催。



南アフリカセミナーでの講演風景



朝食会でスピーチをされるズマ大統領

—2013年 TICADV の開催期間に、南ア大使館と共催でズマ大統領との朝食会（ズマ大統領及びデービス大臣のご列席と日系企業及び南ア関係者185名のご参加者）を開催、また同日貿易産業省と業務協力協定を締結。



朝食会で歓談されるズマ大統領（左はみずほ銀行佐藤 CEO）



デービス大臣立会いのもと行われた、南ア貿易産業省との業務協力協定の調印式

上記の経緯から、弊行内でも南アを中心としてアフリカ地域への取組みを強化する方向が定まり、今般の出張所開設に至っている。

#### 4. スタンダードバンクとの提携について

スタンダードバンクはアフリカ最大の金融機関であり、サブサハラ地域 21 カ国で 1,155 支店（一部は現地法人形態）、ATM8,400 台とアフリカ最大のネットワークを持つ。また、アンゴラでは唯一外銀で銀行ライセンスを持ち、ユニバーサルバンク形態であることから各国で証券業務もできるなど、サブサハラでの金融サービス提供能力は群を抜いている。

日系企業取引に関しては、同行内で日系企業リエゾンデスクが新設され、サブサハラにおける日系企業取引強化を進める中、業務協力協定に基づき弊行と協働する取引も大幅に増加しつつある。両者は補完関係にあり、双方の能力と長所を最大限融通し合い、サブサハラ地域において優れた金融サービスを提供できると考えている。

弊行とスタンダードバンクの協働においては幾つか事例を挙げておきたい。

##### ① 新規口座開設

サブサハラ各国で新規銀行口座を開設する時には通常多くの提出書類が要求され、最低でも 2 週間程度の時間がかかる上、最悪開設できない事態も起りうる。弊行顧客については、弊行が顧客とスタンダードバンクの間に入り、事前の詳細な情報提供と交渉補助を行うことから、比較的スムーズに開設することが可能。個人取引も同様。

② 保証取引

日系企業が輸出先等の現地企業のクレジットが取れないケースで、スタンダードバンクから支払保証等を行うことができる（スタンダードバンクのクレジット審査要）。また、当地 BEE 対応等でスタンダードバンク発行のボンドが必要な場合等、同行がクレジットが取れない場合でも弊行の保証差入により取引実行が可能。

③ 南ア以外の国において、規制等の理由から現地金融機関からの貸出しができないケースでは、弊行からの保証差入によりスタンダードバンクの現地支店／法人から貸出を行うことが可能。

サブサハラ各国においては外準維持、自国銀行育成の観点から、外為規制、金融取引規制が厳しく、一般的にコンプライアンス関連及び当局認可関連の手続が非常に重要となってくる。特に南アにおいては外為規制が厳しく、22 行の Authorised Dealer 以外の金融機関が為替取引を行うことはできない上、全ての対外支払については現地当局の認可取得が必要となる。その他、外貨口座(C.F.C Account=Customer Foreign Currency Accounts)、国内クリアリングシステム等についても厳しく法令が定められており、Heavy Regulated と言える。この点においても同行は為替取引等で最大のシェアを持ち、最も信頼できる金融機関と言える。

（参考資料）「Standard Bank との協働によりサブサハラ地域におけるフルラインの金融サービスが可能に」

5. 最後に（ご挨拶を兼ねて）

サブサハラ地域は今急速に発展しつつあります。確かに国土は広く、天然資源は豊富で、世界の未耕作地の 6 割を占めるなど膨大なポテンシャルがあり、当面この成長軌道は続くように思われます。

この地に来て感じたのは、狭くて災害の多い日本と比べて、こんなに恵まれた国土をうらやましいと思ったことと、反面インフラ未整備で都市の効率が悪く、労働生産性が伸びていかない現状をみて、苛立ちを覚えたことです。信号機が点いていないことなどしょっちゅうで、日本と比べてあまりの落差に驚くことが沢山ありますし、ついつい「日本人がやったら、もっとちゃんとやるはずだ」と思ってしまいます。そして、過去 20 年間日本はアジア各国の発展にいろいろな面で大きく寄与しましたが、アフリカにとっても日本の力が今ほど求められている時代はないと感じています。

日系企業のご活躍を金融面からサポートさせて頂くのが弊行の最大の使命ですが、アフリカにおいては、スタンダードバンクとの提携等により漸くその基盤が整いつつあります。また、今般の出張所開設に伴い、より現場に近い場所から企業の方々のお話を聞かせて頂けることになりました。今後とも少しでもお役に立ちたいと考えておりますので、是非いろいろご相談等をお寄せ頂けますと幸いです。また、新規にアフリカにご進出をご検討の企業の方におかれましては、弊行の直投支援部とともに進出のサポート・お手伝いをさせて頂きたいと思っております。

ご参考

Standard Bankとの協働によりサブサハラ地域におけるフルラインの金融サービスが可能に

ビジネス分野	当行単独の場合 (Standard Bankとの協働前)	Standard Bankとの協働後
トランザクション ビジネス	× <b>ブッキング拠点なし</b>	○ 口座開設、預金、余資運用、送金、FX、インターネットバンキング等フルラインの資金管理サービス提供可能 (Standard Bankを紹介)
コーポレート ファイナンス	<p>南アフリカ・コーポレートローン (ロンドン等の欧州ブック) — USD等のメジャー通貨だけでなく、ZAR建でも期間5年以内であれば実行可能</p> <p>△ <b>Bid Bond、Performance Bond等</b> — 発行銀行がローカル銀行指定でない場合のみ可能</p>	<p>南ア・ZAR建以外の「国」「地場通貨 (+USD等)」ローンも提供可能 — Standard Bankとの協働スキームの検討可能 e.g. 日系ケニア現法あてケニアシリング建ローンをStandard Bankが行い、<b>みずほがUSD建でStandard Bankあてバックファイナンスする2 Step Loan</b></p> <p>○ <b>Bid Bond、Performance Bond等</b> — 発行銀行がローカル銀行指定の場合も、Standard Bankがフロンティングを行う協働スキームの検討可能 e.g. 日系アフリカ現法あてStandard BankがL/Cを発行し、<b>みずほがStandard Bankあて裏保証を行う</b></p>
トレード ファイナンス	<p>L/Cコンファメーション・L/Cフォワーフェイティング — 発行銀行が南アの大手銀行に限定</p> <p>JBIC/NEXIを活用したバイクレ — 地場輸入者 (主に政府系) 向けJBICとのNEXI付協調ローン</p> <p>△ <b>DBSA (南部アフリカ開発銀行) を活用したバイクレ</b> — DBSAが地場輸入者リスクをとり、みずほ (NEXI付)・JBIC等がDBSAあてバックファイナンスする2 Step Loan</p> <p>JBIC/NEXI 投資金融・資源金融 — 日系海外投資・資源輸入に係るJBICとのNEXI付協調ローン</p> <p>サプライヤーファイナンス (ロンドン等の欧州ブック) — 年内システム稼働予定</p>	<p>L/Cコンファメーション・L/Cフォワーフェイティング — 発行国・企業がStandard Bankのネットワークにより大幅拡大</p> <p>JBIC/NEXIを活用したバイクレ — Standard Bank経由の2 Step Loanにより対象案件の拡大</p> <p>○ <b>引き続きみずほ単独でサービス提供可能</b></p> <p>JBIC/NEXI投資金融・資源金融 — Standard Bank経由の2 Step Loanにより日系JVの地場企業出資ポジション (日系親会社保証の非カバー部分) 相当の融資も対応可能</p> <p>引き続きみずほ単独でサービス提供可能</p>
プロジェクト ファイナンス	<p>ファイナンシャル アドバイザリー — 地場リスクに関する分析・地場金融機関を要するストラクチャーは限定的</p> <p>△ <b>ローン アレンジメント</b> — メジャー通貨に限定</p>	<p>ファイナンシャル アドバイザリー — Standard Bankとの協働アドバイザリーが検討可能</p> <p>○ <b>ローン アレンジメント</b> — 地場・メジャー通貨のトランチングやデューデリ時の情報共有等 Standard Bankとの協働スキームが検討可能。</p>
進出支援 (拠点 開設、M&A等) 商幹旋 等	× <b>実績なく、情報・ネットワークは限定的</b>	○ Standard Bankの豊富なサブサハラ・アフリカ地域の情報・ネットワークを活用し、進出支援 (拠点開設、M&A等) や商幹旋に係る情報・サービス提供が可能